

こまがよ



たすけるよ  
こまっていたら  
ぼくよんで

標語：「たすけるよ こまっていたら ぼくよんで」

栃木市 大平隣保館

令和4年10月発行 栃木市大平町新1305-3 TEL 0282-43-6611



## 人権作文

### 「最上級生とついで」

大平東小学校 六年

小川 萌叶

今年、私の登校班に二年生が入ってきました。これまで、幼稚園や保育園に通っていた二年生が小学校までの長い道のりを歩いて行くのは、大変だなあ、と思います。

ある日の登校中に、こんなことがありました。その日は、くもり空で、家を出るときにはまだ雨は降っていませんでした。しかし、母は、「天気予報で、雨が降るかもしれない、と言っていたから、かさを持っていた方がいいよ。」

と言われたので、私は、かさを持って集合場所に向かいました。私以外の子は、かさを持ってきていませんでした。歩き始めると、空が暗くなり始め、ポツポツと雨が降り出しました。最

初は、そんなに降っていなかったのですが、かさをさしませんでしたが、そのうち勢いが強くなってきました。

私は、自分だけかさをさすのが、悪い気がして、どついたらよいかとても迷いました。しかし、雨に降られて寒そうにしている二年生と三年生がかぜをひいてしまうのではないかと心配になりました。そこで、

「このかさ、二人でさしていいよ。」と言って、自分が持っていたかさを渡してあげました。雨の勢いがどんどん増してきて、二人はかさをさしながら、一生懸命歩いていました。

やっこのことで、学校に着くと、三年生の子が小さな声で、「ありがとうございます。」

と言って、かさを返してくれました。私は、自分はかさをささずに、雨の中を歩いてきたはずなのに、なんだか温かい気持ちになりました。

あの時、勇気を出して、「かさ、使ってくださいよ。」と言えたことで、二人ともそんなにぬ

れることなく、学校に着くことができよかったですと思いました。きっとあのとき勇気を出さなければ、私自身も後悔していたと思います。

今年、最上級生になって、下級生と関わる機会が増えました。一年生の朝の準備の手伝いや、たてわり班の班長、新体力テストのシャトルランの数を数えるお手伝いなどです。私は、なかなか自分から相手に声をかけることができません。何かしてあげようかな、と迷っているうちに、時間が過ぎてしまったり、他の子が声をかけてしまったりして、結局できなくて後悔することがあります。しかし、今回の経験のように、勇気を出して行動することで、相手が気持ちよくなったり、手助けをしたりすることができると知りました。高学年として、これからいろいろな場面で下級生と関わる機会が多くあると思います。そんなときは、勇気を出して、困っている人や助けを必要としている人に、積極的に声かけしていきたいと思いました。

## 「人種という壁を越える」

大平中学校 三年

狐塚 真輝 きつねつか まさき

昨年度、東京五輪が開催され、コロナ禍で沈んでいた世界を一気に熱狂させた。様々な国の選手が、スポーツを通してレベルの高い戦いを繰り広げ、お互いを讃え合うその姿は、人と人の友情に、国境は関係ないことを強く感じさせてくれた。しかしながら、最近は人種による差別問題がニュースを賑わせることがある。ある特定の人種のホテル利用を禁じた事例や、SNS上での、国籍や人種を侮辱するような差別的な書き込みなどである。私は、人種は違えど、同じ人間であるのになぜこのようなことをするのだろうか、と悲痛な思いになる。

小学生の頃、通学路には、通勤する多くの外国人が歩いていて、当時の私は正直に言ってしまうと、外国人の方を見て、無意識に避けてしまっ

ことがあった。幼いということもあったが、自分と外国人の方との間には、高い壁が存在しているように思えた。小学校、そして中学校では道徳や総合の時間など、様々な場面で「いじめ」や「差別」は絶対にいけないことである、と教わってきた。そんな中で、私は自分自身に、外国人の方を自分たちと見た目が違うという理由で、無意識に恐れてしまう気持ちがあることに気づくことができた。

差別というのは、決して悪気があったり、傷つけようとしたり、という気持ちから生まれるのではなく、「無意識」からも生まれてしまうのではないだろうか。

現代では、SNSの利用が当たり前となつている。その中で問題視されている差別的書き込みも増加しているように思う。誰かの書き込みにあつた差別的な書き込みを面白がつて、便乗する書き込み。人種に基づく事実とは異なる情報を拡散してしまう書き込み。SNSを通す事により、

差別は一つの発信源から何十、何百もの書き込みになり、広がっていく。

これらを食い止めることは、私一人だけでは、ほぼ不可能に近いと思う。しかし、一人でも多くの人々が、無意識に抱きがちな差別への対抗意識をもつことで、差別の広がり食い止めることができるのではないだろうか。差別が、一つの発信源から広がっていくように、正しさも、どんな人種の方も生きやすい世界にしていきたい、という意識をもてば、その考えはやがてたくさんの人々に広まっていくだらう。それが、差別という大きな問題の解決への道しるべになるかもしれない。

差別問題は、世界全体が取り組まなければいけない。そして、その先頭に立つて日本が差別問題の解決へ取り組む国となり、その一員として、私も様々な人種の架け橋になればよいと思う。



## 「ジェンダー」

大平南中学校 三年

阿部 颯斗  
あべ はやと

みなさんはSDGsという言葉を知っていますか？ SDGsとは、世界中で決められた持続可能な開発のための17個の目標のことです。その中に目標5として、「ジェンダー平等を実現しよう」という目標があります。僕はジェンダーという言葉で中学生になるまで知りませんでした。

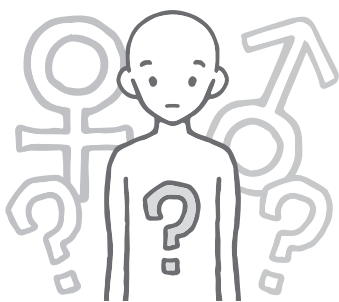
中学一年生の夏休みにたまたま聞いたNHKラジオの「夏休みラジオ保健室」という番組で、LGBT（性的少数者）を取り上げていました。その番組では、性的少数者と呼ばれる人たちのリアルな悩みがたくさん語られていて、僕の知らない世界があることにとても驚きました。日本では、11人に1人、大体10%の割合で性的少数者がいると聞いて「ふーん」とあまり実感はしませんでした。この割合は、日本にいる高橋さ

ん、佐藤さん、鈴木さん、田中さんの総人口より多いという解説をきいて、「そんなに多いのか」と驚いたことを覚えています。また、自分の性を男性、女性のどちらにも該当しないなど、LGBTに該当しない人々もいることを知りました。そして、性的あり方はLGBTとそれ以外の人とはつきりと区別されているのではなく、グラデーションになっているのだということや、LGBTと表現しているのは、それ以外である大多数の人たちに認識してもらうためわざとそのような表現をしているということも理解できました。番組では、家族や友だちにカミングアウトできずに苦しんでいる人や、友だちの恋バナに無理に合わせて悩んでいる人など、本当に今まで知らなかった世界がそこにはありました。

近頃は、LGBTの代わりにSOOG（ソジ）という言葉で表現されることもあります。ソジは、誰もがそれぞれのセクシャリティをもっているとい

う考え方に基づいているそうです。僕は、ジェンダーについてみんなが考えるときは、ソジの方が全員が参加できるのでいいなと思いました。

SDGsが採択されたときの国連事務総長が「LGBTはSDGsのすべての項目に関わる問題であり、『誰も置き去りにしない』というSDGsのモットーに含まれている」と言っていました。僕は面倒くさがりなので、一つを解決することで、多くのことがいい方向に向かうこの考え方が好きです。LGBTについてみんなが理解を深めれば、社会全体がいい方向に向かうと信じて、偏見をもたない社会を創っていききたいと思います。



### 「人権セミナー」を開催しました

部落解放同盟栃木市協議会主催の「人権セミナー」が令和4年8月21日(日)、大平文化会館において開催されました。

第1部で映画「ひまわり」を上映し、第2部で、フォトジャーナリストの安田菜津紀氏を講師に「紛争地、被災地に生きる子どもたち」取材から見えてきたこと」と題した講演が行われました。450名の方にご来場いただき、とても有意義な時間となりました。



### 「HAPPY生き生き塾」開催

今年度の「HAPPY生き生き塾」は室内レクやウォーキング等、体を動かす講座に加えて、「詐欺防止」、「終活」の出前講座等を予定しました。

第1回目の講座は6月28日(火)に「健康ストレッチ」を行いました。間中浩子氏の指導のもと、参加者全員が和気あいあいと取り組みました。



また、今年度は講座の希望者が多く申し込みをお断りすることになった方が出てしまいました。そこで、急遽「ミニHAPPY生き生き塾」なる短期講座を立ち上げました。講座の様子は次号で紹介いたします。

### 「榎本ふれあい交流会」

今年度も大平地域榎本にある「榎本集会所」にて毎月第3金曜日に榎本地区在住の高齢者の方を対象に「ふれあい交流会」を開催しています。

7月は大平レクリエーション協会の方たちと「ゲームで頭と身体を動かそう」と題し、カロリーニングやサイコロゲームを行い、盛り上がりました。



# 人権啓発活動

## ◎市内の小学校へ

### 『人権の花』を贈呈

人権の花運動は、小学生が協力して花を栽培することにより、児童の心を豊かにし、人権に対する理解を体得されることを目的としています。

今年度は、5月25日から6月9日にかけて、市内10校の小学校(皆川城東小・大宮北小・藤岡小・栃木第五小・西方小・大宮南小・南小・小野寺小・大平西小・赤津小)に人権擁護委員が訪問し、人権のお話と「人権の花」を贈呈しました。

この活動を通して一人でも多くの児童が、自分の中にある優しい心、相手を思いやる心に芽生え、大きく成長されることを願っています。



## 副島淳さんの

### 講演会を開催します

人権尊重のまちづくりを推進するため、「人権を考える市民の集い2022」を開催いたします。



そえじま じゅん 副島 淳 さん

◆日時 12月3日(土) 午後1時10分〜

◆場所 とちぎ岩下の新生姜ホール (栃木文化会館) 大ホール

◆講師 副島淳さん(俳優・タレント)  
◆演題 「ちがいを楽しむ 〜いま君のいる場所だけが、世界のすべてじゃない〜」

◆定員 600人(先着順)  
入場無料ですので、お気軽にお越しください。

※手話通訳・要約筆記あり

申込不要ですが、会場受付で連絡先の記載(提出)をお願いいたします。

市内小学生の人権書道や人権絵画コンテストの展覧作品等をホワイエにて展示します。

また、新型コロナウイルス感染症の状況によりましては、中止することもございます。その際は、栃木市ホームページにてお知らせします。

#### ◆問い合わせ先

人権・男女共同参画課

電話 0282(21) 2161

## ◎「破戒」上映の

### お知らせ

島崎藤村、不朽の名作「破戒」を60年ぶりに、全国水平社創立100周年記念映画製作委員会が映画化。

12〜1月に栃木市内の各文化会館で上映予定です。詳細は、後日、市ホームページ等でお知らせします。





# 栃木地域集会所 講座 受講生募集

## 【皆川城内集会所】

- ・子ども習字、民謡、カラオケ、民謡踊

## 【新栃木コミュニティ会館】

- ・子ども習字、書道、ちぎり絵、七宝焼、カラオケ

## 【栃木第四地区コミュニティセンター】

- ・子ども習字、書道、ペン習字、ちぎり絵、俳画

★興味のある方、詳細についての問合せは、厚生センターまでお願いいたします。 ☎24-2444

令和4年4月から、厚生センターに勤務する職員は下記の3名になります。よろしくお願ひいたします。

厚生センター所長	高田 佐智代
係員	金子 裕恵
人権啓発指導員	岡泉 智徳



栃木市旭町9-7



■生活環境部 人権・男女共同参画課

厚生センター ☎ 0282-24-2444



### 【集会所事業報告】

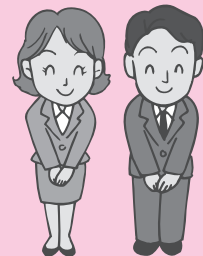
大平地域集会所（榎本・伯仲・真弓・西水代・富田）では、ダンス、カラオケ、民謡、料理など趣味の講座の他に高齢者や女性を対象とした講座を行っています。講座の内容を一部紹介しますと、榎本集会所のはつらつ教室では「マジックと懐かしのメロディー」と題し、外塚一樹先生による手品とハーモニカ演奏に合わせ歌うなど楽しいひと時を過ごしました。また、富田集会所の高齢者教室では、交通防犯課職員による「特殊詐欺」に関する出前講座が行われ、最近の被害状況等の講話やDVDを鑑賞し、犯人の巧妙な手口を学び、「落ち着いて対応すること」の大切さを実感していました。



## 大平隣保館からのお知らせ

令和4年度は、次の7名の職員が大平隣保館を担当することになりました。

大平隣保館長	羽石 弘
隣保館担当	渋谷 由貴・小野美津子
集会所担当	吉羽美千代・野上 英章
人権啓発指導員	渡邊 正・栃木 憲夫



どうぞ、よろしくお願いいたします。

### 隣保館相談事業

大平隣保館では、市民を対象に日常生活における様々な困りごとに関する相談を常時受け付けしております。

どこに相談したらよいのか分からない場合でも、お気軽にご相談ください。隣保館で対応するほか、ご相談内容に適した機関等をご紹介します。

また、奇数月の第三木曜日は無料弁護士相談を行っております。ご希望がございましたらお電話でお申込みください。

### 生活相談や 困りごとは 大平隣保館へ

電話での相談はフリーダイヤルで

よろしく なやみなし

# 0120-46-7830

(平日午前8:30から  
午後5:00まで)

表紙絵 絵手紙作家

根本晴夫さん

標語 大平中央小学校2年

猿山真輝さん